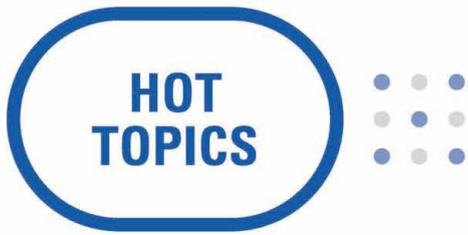


朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人的知性に富む人間の育成をめざします。

2014年4月看護学科誕生

朝日大学は、1971年に開学した前身の岐阜歯科大学以来42年に渡り培ってきた
歯科医学の教育・研究・臨床、そして地域医療活動に基づき新たな医療従事者の
育成を行うため、2014年4月に保健医療学部看護学科を開設することとなりました。





教育・研究・臨床の成果を地域社会へ

朝日大学では、「地域と共に歩む大学として日頃の研究成果を社会に還元する」ことを目的に、1987年度から日常生活に身近な話題をテーマに取り上げた公開講座を開講し、地域社会の幅広い層の人々へ学習の機会を提供している。

第27回となる今年度は、岐阜歯科大学創立以来、本学が取り組んできた「人の命」を守る医療、働き方が変わりつつある「労働契約の多様性」、東日本大震災からの復興と2020年東京オリンピックに向け重要なカギとなる「アベノミクスと日本経済」、そして、2014年4月の保健医療学部看護学科開設をみすえた「看護の魅力」について、瑞穂市総合センター内サンシャインホールに各界のトップリーダーを迎え、それぞれの立場からの提言を受ける公開講座が開催された。



「2013朝日大学公開講座」の案内

割について講演が行われ、受講者は労働問題について学んだ。

労働弁護士から見た労働者の権利状況

岐阜県弁護士会 仲松 正人 弁護士

労働と契約

法学部・大学院法学研究科 靱山 錚吾 教授

ベストドクター - 神の手と呼ばれた男たち -

第1回の公開講座では、心臓外科、美容整形外科、脳神経外科のエキスパートを迎え、手術に対する考え方や正確な手術を行うための工夫などについて、実際の手術映像をまじえながらの講演が行われ、最新の医療について理解を深めた。



左から大友学長、郭教授、市田先生、天野教授



心臓血管外科の権威
天野教授が語る



アンチエイジングを
語る市田院長



郭村上記念病院副院長
天野教授が語る

正確な手術を目指して

順天堂大学医学部・大学院医学研究科 天野 篤 教授

美容形成外科とアンチエイジング

いちだクリニック院長 市田 正成 先生

脳はどこまで手術できるのか

村上記念病院副院長 郭 泰彦 教授

労働契約の多様性

第2回の公開講座では、労働問題のエキスパートを迎え、労働者の権利問題の現状、労働者と企業のあるべき姿、労働契約の課題と役



左から平田勇人法学部長、仲松弁護士、靱山教授

アベノミクスと日本経済

第3回の公開講座では、経済のエキスパートを迎え、日本の明るい未来に向けてだれもが期待する景気回復とアベノミクスの行方について講演が行われ、東日本大震災からの復興と2020年東京オリンピックに向けた日本経済の展望についての理解を深めた。



古賀会長がアベノミクスと
日本経済を語る

アベノミクスと日本経済

野村ホールディングス(株)取締役会長・野村證券(株)取締役会長 古賀 信行 氏

格言から見るアベノミクス相場との付き合い方

経営学部 田ノ上 純一 教授

看護の魅力を語る

第4回の公開講座では、2014年4月の保健医療学部看護学科開設をみすえ看護教育・研究のエキスパートを迎え、「看護の魅力」について講演が行われた。参加者たちは保健・医療・福祉現場で大きな役割をはたす看護師の魅力について理解を深めた。

現在の保健・医療・福祉を取り巻く社会環境は、急速な少子高齢化の進展、医療に対するニーズの多様化や医療技術の進歩などにより大きく変化している。こうした変化の中で、質の高い看護師の養成が喫緊の課題となっている。



看護の魅力を語る井部学長

誰も看護師を知らない

聖路加看護大学 井部 俊子 学長

看護大学の増加と課題

保健医療学部看護学科設置準備室 濱畑 章子 教授

濃飛倉庫運輸(株)と 産学連携協定

濃飛倉庫運輸(株)と朝日大学は、幅広い地域社会への貢献に向け相互に持てる社会的能力を十分に発揮し協力し合うことで、産学連携活動に関する協定を締結した。調印式は、同社小澤義行代表取締役社長と大友克之学長ら関係者が出席し岐阜市内の濃飛倉庫運輸本社で行われた。

物流分野の研究で産学連携

今回の連携により、幅広い地域社会への貢献に向け、物流に関する研究活動での連携、相互の講師派遣による講演会・研修会の開催などが積極的に展開されることとなる。

1916年に設立された濃飛倉庫運輸(株)は、「地域社会経済への奉仕」を社是とし従業員1,200名、国・内外に70の事業所・拠点を有する地域に根ざした総合物流企業である。



調印式で堅い握手を交わす小澤社長(右)と大友学長

「講演と懇親の会」を開催

「朝日大学主催講演と懇親の会」が、名古屋駅のマリオットアソシアホテルにおいて盛大に開催された。

同会は、本学学生の就職対策の一環として毎年開催される行事で、各企業の役員・人事採用担当者を招き、日頃の本学に対する就職支援への感謝と、本学教職員とのより一層の人事交流を深めていただくことを目的として開催されている。本年は愛知県、岐阜県などの企業181社より、約240名の人事担当者が参加した。

今回の講演テーマは「伝え・人を動かす」(講師:経営学部田村明教授)で、いかなる組織においても確かな情報を正確かつ迅速に伝えることが人を動かす「ツボ(基本)」であるという講演内容に、参加者たちは熱心に耳を傾けメモを取っていた。



伝えることの大切さが語られる

活発な情報交換

講演会終了後には、会場を移し懇親会が開催された。会場内では各企業の人事担当者と本学教職員とが企業の採用状況、卒業生の近況や社会情勢などについて活発に情報交換を行い、有意義な「講演と懇親の会」となった。

2014年4月 保健医療学部 看護学科誕生

保健医療学部看護学科の入学試験がスタート



入試区分	募集人員	試験日	試験科目
一般推薦	35名	2013年 11月24日(日)	小論文(800字) 基礎学力テスト(英語・国語) ※解答はマークセンス方式 面接
一般	I 期	40名 2014年 1月24日(金)	外国語「英語Ⅰ・Ⅱ」必須 ※解答はマークセンス方式 国語「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文」 数学「数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ」 理科「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」
	Ⅱ 期	5名 2014年 3月 2日(日)	以上から1科目選択 ※解答はマークセンス方式

保健医療学部看護学科について

入学定員	80名(男女共学)
キャンパス	岐阜県瑞穂市穂積1851(穂積キャンパス)
取得できる資格	看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格(選択制・入学定員のうち15名)
課程	4年制
学費	入学初年度学納金 172.5万円(入学金、授業料、実習費、施設設備費) 4年間の学納金総額 600万円

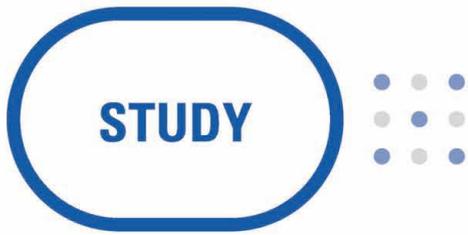
看護学科の特色

- ♥ 高度な技術と知識、豊かな人間性を育む看護教育を実践します。
- ♥ 地域医療に貢献する看護師を養成します。
- ♥ 附属村上記念病院を中心に、病院実習を行います。

お問い合わせ先: 朝日大学 入試広報室

FD: 〇120-〇58-327

T501-0296
岐阜県瑞穂市穂積1851



「特別論文賞」を受賞

「第43回日本口腔インプラント学会学術大会(福岡)」において、山内六男教授(歯学部可撤性義歯学分野)が栄えある「特別論文賞」を受賞した。

同賞は、日本口腔インプラント学会において学会誌に掲載された優秀な論文の指導者に贈られる名誉ある賞。



「特別論文賞」を受賞した山内教授

「日本歯科医療管理学会」開催

「第54回日本歯科医療管理学会総会・学術大会」が穂積キャンパス6号館で開催された。「歯科医療管理学の今、そしてこれから」をメインテーマとした同学会では、磯崎篤則歯学部部長が大会長を、山内六男教授(歯学部)が準備委員長を務め、全国から約300名参加者が集い盛大に開催された。

大会長の講演「私の考える歯科医療管理学」、永松榮司氏(本法人監事)による教育講演「歯科医療における医療紛争の対策」ではじまった同学会では、シンポジウムや口頭発表、ポスター発表などが行われ、シンポジウム「歯科医療管理学教育の現状と今後」では大橋たみえ准教授(歯学部)がシンポジストとして演台に立った。

私立歯科大学の現状と未来

また、特別講演では、「私立歯科大学の現状と未来」と題した大友克之学長の講演も行われ、参加者たちは今後の歯科大学の未来を思い描き熱心に耳を傾けていた。



大橋准教授がシンポジストとして講演

「憲法学会」開催

穂積キャンパス6号館を会場とし「第109回憲法学会総会・研究集会」が開催された。

齋藤康輝教授(法学部)が総会幹事、法学部学生がボランティアを務めた同学会では、「領土問題と憲法・安全保障」をメインテーマとした4つのシンポジウムが展開され、全国から集った学会員らが活発な意見・情報交換を行った。

「エクスカッション」で長良川鵜飼

同学会終了後にはエクスカッションとして長良川鵜飼の観覧が催された。

岐阜長良川の鵜飼は1300年以上の歴史を有し、観る人をまるで新能の幽玄の世界へと誘う優雅なもの。伝承の歴史を刻む篝火に、学会員らと共に鵜飼船に乗船した学生たちは、宮内庁式部職である鵜匠が鵜を操って鮎を獲る様子カメラにおさめ、ゆったりと流れる時間を楽しんだ。



篝火による鵜飼を楽しむ学会員・学生ら

「サービス介助士2級」を取得



サービス介助士の実技検定試験を受験

法学部・経営学部では、建学の精神に基づき社会に貢献できる人材を育成することで、今秋から1年生対象の必修科目「社会貢献」が開講された。

開講に先立って両学部の教員・職員ら18名が民間資格「サービス介助士2級」を取得した。

もてなしの心と介助技術

NPO法人日本ケアフィットサービス協会が認定する同資格は、高齢者や障害者に対する介助技術と心遣いの習得をめざすもので大垣共立銀行など企業の社員研修にも採用されている。同協会によると授業運営のために大学教員らが「サービス介助士」の資格を取得するのは初めてとのこと。

「日本学校教育相談学会」をサポート

教職課程センター下野正代教授が大会実行委員長を務め穂積キャンパスで開催された「第25回日本学校教育相談学会総会・研究会」で、教員をめざし教職課程センターで学ぶ学生30名がボランティアとして学会運営をサポートした。

全国から約350名の参加者が集った同学会では、富永良喜氏(兵庫教育大学大学院教授)による記念講演「人と人とのつながりや思いやりを育てる学校教育相談」、宮本正一氏(岐阜大学教授・同大学長補佐)による特別講演「人との関係を作るソーシャルスキル」やワークショップ、研究・実践事例の発表などが行われた。

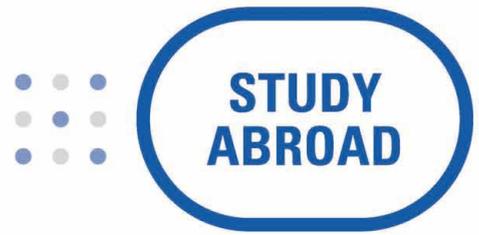
ボランティアの成果

「教育現場の先生方から教員をめざす心構えなど貴重なアドバイスを受けることができた。機会があれば今後もぜひ参加したい」と語った学生たちに参加者からは、「心のコもったおもてなしや対応に感動した。未来の教員として楽しみだ」との声が多く寄せられた。



ボランティアとして参加した学生たち

歯学部海外5カ国・8大学で研修



実り多き成果を報告

歯学部では、国際的な視野を持ち、幅広く活躍できる歯科医師を育成するために、毎年夏季休業期間等を利用した学生の「短期海外研修」を実施している。

5年生を対象とした海外研修の費用は全額大学が負担。学生にとっては、海外の医療の現場を知る絶好の機会といえる。今回、海外5カ国・8大学での実り多き研修が終了し、研修成果が報告された。



アメリカ

カリフォルニア大学
ロサンゼルス校

5名



自己紹介が国際交流のスタート。歯科医師として「生涯研修における向上心」が重要とのレクチャーを受ける。教員は学生を一人の歯科医師として扱い、学生自身も歯学部生としての自覚を持ち、教育と診療に取り組んでいる姿勢に共感。



中国

北京大学
口腔医学院

4名



中国最大の歯学部で歯科医学の中心的役割を、充実した施設・建造物で実感。ハイレベルな講義と手術室を見学し、「将来の歯科医師」としての自覚がめばえる。



アメリカ

アラバマ大学
バーミングハム校

5名



学生自身が自分の患者を受け持っており、そのモチベーションの高さに驚く。パーティでは日米の学生全員が甚平・浴衣姿となり、書道を披露するなど日本文化の紹介も行う。



中国

第四軍医大学
口腔医学院

5名



西安市の旧名称は長安。西周時代から秦、漢、隋、唐の都であり、古代より政治の中心地として発展。軍医を養成する大学で、他の大学では体験できない研修プログラムに参加。



アメリカ

テキサス大学
サンアントニオ校

5名



臨床実地教育や講義に参加し、歯科教育の違いを経験。学生の勉学に対するモチベーションの高さに共感する。肌で感じたTEXASの文化・社会性が国際性豊かな歯科医師を育成する。



イタリア

シエナ大学

2名



シエナ大学は1240年に設立された歴史ある大学。そして町自体が世界遺産のシエナ、その美しさと歴史の重みに圧倒される。歯科治療の考え方、治療方針における日本とイタリアの違いを学ぶ。



メキシコ

メキシコ州立自治大学

5名



地球の裏側で、まさに国際交流を実体験。普段陽気な学生の振る舞いが、授業では一転「厳格な講義」へと。勉学に対する「真摯な態度、モチベーションの高さ」を学ぶ。



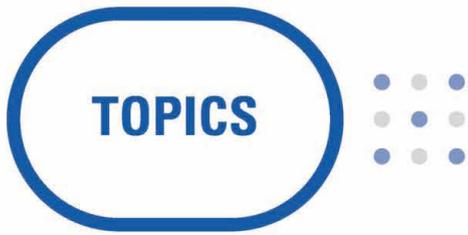
フィンランド

トゥルク大学

2名



トゥルク大学はフィンランドの古都トゥルク市にある私立大学。歯学部ではキシリトールを用いた齲蝕予防やファイバーブリッジを用いた治療など、大学発祥のオリジナリティーにあふれる高度な歯科治療・教育研究が行われている。



海外の大学と共同研究

建学の精神に基づき、姉妹校協定を締結しているメキシコ州立自治大学歯学部からJuan Carlos González Pérez先生を客員研究員として受け入れた。

同氏は、一昨年の共同研究に引き続き、歯学部歯科補綴学分野都尾元宣教授の下で「安定化ジルコニアの歯科への応用」をテーマに1年間の研究を行うこととなる。



大友学長と握手するPérez先生(右から2番目)

研究概要について説明を受けた大友克之学長は、同氏に「朝日大学での実りのある研究に期待します」と語った。

研究概要について説明を受けた大友克之学長は、同氏に「朝日大学での実りのある研究に期待します」と語った。

「MSL・MSJサミット」に参加

法学部の学生で組織する防犯ボランティア団体「めぐる」が、北方町生涯学習センター(本巣郡)で開催された「MSL・MSJサミット」に参加した。

同サミットは、規範意識向上や非行防止活動を行う高校生・中学生の自主組織「MSリーダーズ、MSジュニア」の活動事例を発表するサミットで、瑞穂市周辺地域の中学・高校の生徒ら約300名が出席した。

防犯ボランティア活動

「めぐる」のメンバーは、地元の穂積小学校区で行っている自主防犯活動を題材に、地域社会と連携した日頃の活動内容や防犯ボランティア活動を通じて学んだことなどを報告。会場に集った生徒や関係者たちは、「めぐる」の報告に真剣に耳を傾けていた。

MSL (Manners Spirit Leaders)

岐阜県の高中生らが組織する規範意識啓発推進委員会

「FD・SD研修会」を開催

「第13回FD・SD研修会」が穂積キャンパス5号館講義室で開催され、教職員ら約200名が出席した。

今回の研修会には、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター次長の原徹氏を講師に招へい。「私立大学の現状と課題」と題した研修会では、同氏から私立大学を取り巻く社会状況が解説されると共に、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向け、各大学が教育・研究・社会貢献により一層真摯に取り組む必要がある」と語られた。

朝日大学では、全学や各学部のFD活動推進委員会などが中心となり「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざし積極的なFD・SD活動を展開している。



原氏が「私立大学の現状と課題」を解説

大学広報を考える

新たな大学の広報のあり方を模索することを目的とした「第3回大学広報を考える会」が開催され、報道機関、広告代理店、出版社などの関係者約100名が参加した。

高校生の仕事観と大学広報



「マイナビ進学」編集長の武村氏が講演

「高校生の仕事観と大学広報へのヒント」と題した講演会では、(株)マイナビの「マイナビ進学」編集長の武村勇二氏から昨今の高校生や大学生の仕事観が解説され、「常に若者の動向をとらえて、大学は高校生に対し具体的な“人材育成像”を情報発信する必要がある」と語られた。

講演会終了後は、会場を移し情報交換会が行われ、参加者それぞれの業種(立場)から見た昨今の大学広報やメディアの果たす役割などについての意見が活発に交わされていた。

入院患者の心を癒すコンサート

村上記念病院1階ホールでサマーコンサートが開催され、入院患者ら約250名の聴衆が弦楽器のかなで美しい音色に聴き入った。

今回のコンサートでは、岐阜を拠点に活動する市民楽団「岐阜チェンバーアンサンブル」が、ヴァイオリンやチェロなど4種類の弦楽器を演奏。「メヌエット」「カノン」「G線上のアリア」など10曲を披露、最後に「川の流れるように」を聴衆とともに合唱した。同楽団のヴァイオリン演奏者の中に

は歯学部4年の山口豊さん(東京)も所属している。

入院患者の心を癒す



岐阜チェンバーアンサンブルによる演奏

コンサートは、地域貢献の一環として毎年夏と冬に開催されており、入院生活でふさがちになる患者の心を毎回癒している。

CLOSE UP

「朝活」で自立を

「無限の可能性を信じ、常に挑戦し続ける」、力強い朝礼の声が体育会会計研究部の学習室から聞こえる。同部では、公認会計士試験の合格をめざす部員たちの答案練習が毎朝7時前から授業開始まで行われている。また、歯学部では5年生を対象にした「0時限」の授業(総合歯科医学)が磯崎篤則歯学部長も出席して朝7時30分からスタートする。

大友克之学長は、「早起き」で効率的な時間管理を学生に身に付けさせ、自立できる意欲的な人材を実社会に送り出したい」とその理由を説明する。

「朝ごはんプロジェクト」を展開

穂積キャンパス6号館食堂では、体育会のラグビー、硬式野球、フェンシング、自転車競技等の選手や指導者ら約200名が毎朝「朝ごはんをたべようプロジェクト」に参加。選手たちは日々厳しい練習を積み重ね、規則正しい食生活の面からも競技力向上をはかり、より高いステージで活躍できるアスリートをめざしている。



朝8時、「朝ごはんをたべようプロジェクト」の様子

「歯学部ボウリング部門」
総合優勝

品川ボウリングセンター(東京)で開催された「第45回全日本歯科学学生総合体育大会ボウリング部門」で歯学部ボウリング部が「団体総合優勝」の栄冠に輝いた。

同大会のダブルス戦では優勝、4・5位入賞を、団体戦でも準優勝、3位入賞と健闘し朝日大学が「団体総合優勝」をはたした。

来年度同大会の運営は朝日大学が主管とのこと、「ボウリング部門連覇」に期待がかかる。



「団体総合優勝」の栄冠に輝いた歯学部ボウリング部

卓球

「秋季東海学生リーグ」で女子「優勝」、男子「準優勝」。

ホッケー

「第19回東海学生ホッケー選手権」で「優勝」。
「第62回全日本大学ホッケー選手権」で「3位入賞」。

硬式テニス

「岐阜卓オネックスオープン2013」で南俊成選手(ビジネス企画4年:愛知)が「準優勝(ダブルス)」。



SPORTS

ボウリング

「パーフェクトゲーム」達成!

「第32回全日本ミックスダブルスオープンボウリングトーナメント」が、スポーツ名古屋(愛知県)で開催され、プロ・アマチュア合わせて243チームが出場した。

体育会ボウリングチームの安里秀策選手(ビジネス企画4年:沖縄)と竹川ひかる(同4年:岡山)のペアは、準決勝で竹川選手がパーフェクトゲームを達成する活躍をみせ、総合13位、アマチュア部門ではみごと「3位入賞」をはたした。

自転車競技

「全日本インカレ」で
9年連続「総合入賞」

「文部科学大臣杯第69回全日本大学対抗選手権」が、青森県八戸自転車競技場ほかで開催された。

トラック競技8種目及びロード競技1種目の総合成績で争われる「全日本インカレ」には、基準タイムをクリアした全国40大学からのべ417名が出場。スプリント、1kmTT、4kmIP、ポイントレース、タンデムSP、チームSP、4kmTPの7種目で入賞をはたした自転車競技部は「男子総合6位入賞」の好成績を収め、創部3年目からの「9年連続総合入賞」をはたした。



「3位入賞」をはたしたチームSP

剣道

「第7回全日本女子学生剣道東西対抗試合」で今村春葉選手(法4年:福岡)が「優秀選手賞」。

「第36回東海女子学生剣道優勝大会」で「3位入賞」。

「第60回東海学生剣道優勝大会」で「3位入賞」。

相撲

「全日本女子相撲郡上大会」で山元佳美選手(ビジネス企画3年:岐阜)が「準優勝(軽量級)」、野上麻奈選手(ビジネス企画3年:富山)が「3位入賞(重量級)」。



CLOSE UP

「国家公務員試験」にみごと合格

2013年度国家公務員採用一般職試験合格者の発表が行われ、法学部4年の村上宗真さんが、難関といわれる「国家公務員試験」にみごと合格(合格者1,474名で席次152番)した。

村上さんは、東日本大震災の被災地である宮城県立気仙沼高校の出身。幸に家族と自宅の被災は免れたものの一向に進まない復興事業を目のあたりにし、微力ながらふるさとの未来に貢献できればとの想いを抱き、法学部の齋藤康輝教授(憲法)のゼミに所属し勉学に励むと共に、同学部の「民法塾」でも公務員試験合格をめざし日夜努力を続けた。

大友克之学長に合格の報告に訪れた村上さんは、「後輩たちが自分に続いてくれると信じている」と語った。



合格の報告に訪れた村上さん(右から2人目)

秋季入学式を挙

すがすがしい秋空の下、2013年度朝日大学秋季入学式が穂積キャンパス6号館大講義室にて厳粛に挙行された。

今秋の入学者は、世界6カ国から総員33名(学部、大学院、留学生別科)であった。学長告辞を緊張した面持ちで受けた新入生の新たなページがここ朝日大学でスタートすることとなり、有意義で充実した学生生活を送られることを期待する。

建学の精神遵守を誓う

式典では、大友克之学長から入学許可に引き続き、「建学の精神に基づき朝日大学での勉学・研究にそれぞれが邁進し、有意義な学生生活を送ってください」と告辞が述べられ、入学生の代表からは、「建学の精神を遵守し、学業成就に向けて日々努力します」との力強い宣誓が行われた。



入学の許可を受ける入学生たち

秋季学位記授与式

秋季学位記授与式ならびに修了式が穂積キャンパス6号館大講義室において華やかに挙行された。

今秋の卒業生・修了生は、学部卒業生、大学院修了生、留学生別科修了生の総員35名(7カ国)。式典では、大友克之学長から学位記、修了証書が一人ひとりに手渡され、卒業生らは緊張しつつも充実感に満ち溢れた面持ちで学位記を受領していた。



新たな門出を祝福

教職員・父母等に拍手で送り出された卒業生たちは皆、朝日大学での学生生活の日々を振り返りながらも、これから始まる新生活への希望に満ちた表情であった。また、式典終了後には、卒業記念パーティーが6号館ホールで開かれ、華やかなパーティー会場では、卒業生たちが新たな門出を互いに満面の笑顔で祝福し合っていたのが印象的であった。

卒業記念パーティーで新たな門出を祝福

交通安全運動を実施

穂積キャンパス正門前で交通安全運動が実施された。

「交通安全県民運動」の一環として行われた交通安全運動では、正門前の横断歩道で交通安全協会の交通指導員とともに学生や教職員らが、交通誘導や交通ルール・マナーの啓発活動を行った。



正門前で交通安全運動を実施

防災訓練を実施

将来発生すると予想される大規模地震等に備え、穂積キャンパス総合グラウンド及び6号館で、瑞穂消防署の協力のもと教職員・学生約400名が参加し防災訓練が実施された。

震度6強の大地震及び火災発生を想定した今回の訓練では、教職員・学生が地震に対する「身の安全確保、避難誘導、要救助者の救助」や、出火した場合の「初期消火、延焼防止措置、非常用消防設備の使用」などの対応に実践的に取り組んだ。



大規模地震等に備え防災訓練を実施